

利用者さん理解に使える マズローの「欲求の階層」



執筆 ▶ 葉山 靖明 ● (株)ケアプラネット
「デイサービスけやき通り」代表取締役

今回は、発症後に私が求めたもの、つまり欲求の変化を、有名な「アブラハム・マズローの欲求の階層」に基づいて、整理しながら書いてみます。

読者であるケアマネさんにも、担当する介護者の今の状態の理解や、今後の変化の予測を立てる目安に使ってもらえたらうれしいです。少なくとも私はデイサービス施設長をやっていたころ、マズローの欲求の階層を使って利用者理解に努めていました。



(1) 命がほしい状態

2006年2月20日午後。会議中に倒れた私は右半身が動かなくなり、死んでしまうのか、悪くなるのかと、生命の危機にさらされました。3カ月の入院期間中にも、いわゆる「生きた心地がしない」という状態でした。

…… 第1段階、生理的欲求



(2) 迷子のような状態

3カ月の入院の後に退院でき、自宅に帰る途中に、社会福祉協議会の相談窓口に行き、理学リハビリができるデイサービスを紹介してもらいました。すぐにデイサービスへの通所が始まりましたが、約40人の中で、友達はいないという、いわば「借りてきた猫」状態でした。目的の理学リハビリは行って

いたのですが、それは連載1回目です。書いた「社会の中で迷子になった男」状態であり、40人の中にも独りぼっちでした。何を要求すべきかさえも分からない、必死で親を探す迷子のような不安定な心理だったのでしよう。

…… 第2段階、安全と安定の欲求



(3) 輪に入りたい状態

週2回のデイサービス通所を続けると、割と近い年齢の50歳代の男性や、話しやすい高齢の女性、そして、よく話すスタッフもできました。みんなが笑いながら話す輪に入りたかったり、レクリエーションで書道を行っていたら、書道など嫌いはずなのに「左手の書道」を積極的にやってみたり。「おれも協調性が出てきたな!」と自己分析していたことを思い出します。所属していることが楽しかったのだでしょう。

…… 第3段階、愛・集団所属の欲求

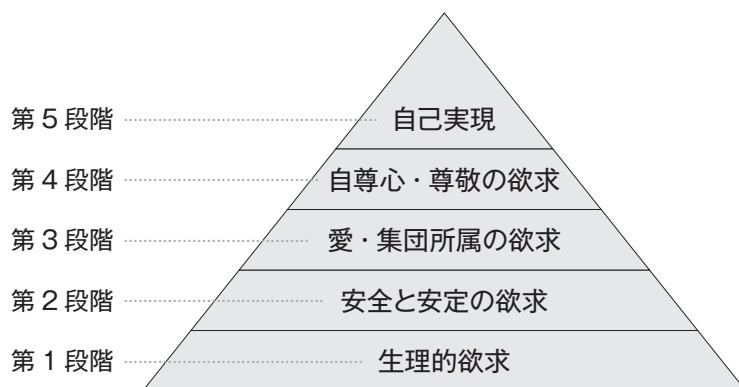


(4) 抜き出たい状態

通所も半年を過ぎると、毎回決まった運動メニューに疑問を感じ「おれはいつまでデイサービス通い?」「リハビリってこればかり一生やるの?」と疑問を持ちはじめ、マイカーを片まひ用に改造し一人で陶芸教室に通ったり、美術館に行ったり学芸員と失語症でも一生

葉山 靖明 はやま やすあき
1965年福岡県生まれの50歳。専門学校で法人税法及び簿記論の講師を務めていた2006年、40歳のときに左脳内出血発症し右片まひに。翌年それまでの職場を辞して(株)ケアプラネット設立。現在は、デイサービス経営のかたわら講義・講演活動を継続中。社会福祉法人「夢のみずうみ村」役員。人間科学修士

図 アブラハム・マズロー：欲求の階層（5階層）



懸命に話したりしました。みんなと一緒に「×」であって、みんなと違うが「○」。いわゆる「抜きん出たい」という心境でした。連載第2回で書いた片まひバンド「リハビリーズ結成」もこのころだったと思います。承認欲求の時期。ここがQOLに大きく影響するでしょう。

…… 第4段階、自尊心・尊敬の欲求



(5) 本来の自分に もう一度戻りたい状態

発症後1年が経過すると復職か否かの話し合いが行われました。本来、大学や専門学校で簿記等の講師に誇りを持って仕事していた私は、講師としての復職を強く希望しました。しかし、会社側は「経理部としての配置換え後の復職」を提示してきました。そのころは、まだ杖をついた状態で失語もあったので、会社側の言うことは当然の、いや有難い措置だったでしょう。しかし、そのころの私は、それでは自分の人生や存在が消え失せるような恐怖

感にかられていたと記憶しています。だからだと思いますが、かたくなに「講師としての復職」を望み、激しく交渉しました。

そのころを振り返って、私の担当ケアマネは「復職しても講師ができない社内での配置替えでは、葉山さんは納得しなからうなあ……。講師職でなければ……。ケアマネとしてどうしようか……。」と悩んだと最近、聞きました。結果は……。辞職しました。

傷を負った身体で、講師という「存在」を取り戻し、病後の人生の最も輝かしい状態を夢見て自己実現を目指していたのでしょう。「復職」「安定した収入」だけで判断しなかった担当ケアマネさんの要介護者理解の質の高さには、今、あらためて驚きます。

結局、私は昔から夢だった独立をし

て、デイサービス経営。そして、分野は会計学からリハビリテーションに変わったのですが、講師として教壇に立つ仕事をしています。

…… 第5段階・自己実現の欲求

葉山事例におけるマズローの欲求の階層の検証はいかがだったでしょうか。葉山靖明という一人の男の40歳からの第二の人生に5段階。読者であるケアマネさんの担当される要介護者の状態は、第何段階にあたるでしょうか。第4段階の欲求をどう満たすかが、本人から見たケアマネさんの評価になるのではないのでしょうか？

* 参考文献 フランク・ゴープル著「マズローの心理学」1972年（産業能率大学出版部）

今月の私

OT界の達人山根先生と対談



なのはこれなんだ！と実感しました。

10月上旬、熊本県で作業療法士（以下、OT）対象の研究会において、元日本OT協会副会長、京都大学名誉教授である山根先生と私が対談をさせていただきました。テーマは「作業とは何か、どう活かすか？」です。

山根先生は著書や論文も数多いうえに人柄も優しい、OTのスーパースター的存在。代表作『ひとと作業・作業活動』は作業療法の奥深さを分かりやすい言葉で伝えた名著です。言葉の達人である山根先生と、やや失語症ありの葉山。ビビるやら、意気込むやらで迎えました。

壇上でOTと患者のかかわり合いを二人でアドリブの実演をしながら、OT側の狙いを山根先生が話し、患者側の心の変化を私が話し、200名の聴講者が聴き入ります。

対象者の「声なき声」を、とても丁寧なかかわりの中で聴く作業療法の一場面。どんな現場でも、必要